

No.3

かんきょう ニュース

関西学院大学 波江先生から見た「隠岐の島町のごみ問題」

隠岐の島町のごみ処理の特徴や課題など詳しく書かれていますので、ぜひご一読ください！

★ここがびっくり！ 隠岐の島町のごみ

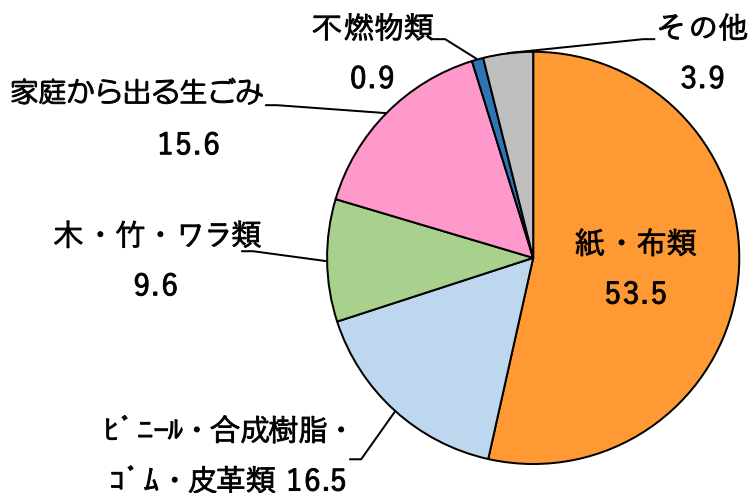
68.8%（平成29年度）。何の数字かわかりますか？ 実は「隠岐の島町で出たごみのうち、清掃センターやリサイクルセンターに直接持ち込まれたごみの割合（直接搬入割合）」なのです。つまり、隠岐の島町のごみの3分の2以上は、町民や事業所の方がせっせとごみ処理施設に持って行ってということ。日本全体の値が8.9%ですから、いかに隠岐の島町の数字が飛び抜けている（全国第3位！）かがおわかりいただけたかと思えます。

実際、清掃センターにいくと、ごみの搬入に来られる様子をよく見かけます。昨年3～4月に実施したアンケートでは、清掃センターやリサイクルセンターにごみを持ち込む理由として、「ごみを持ち込むほうが料金が安いから」や「いつでもごみを出すことができ便利だから」といった回答が多く見られました。その気持ちは理解できるのですが、私はやはり、これだけ直接搬入割合が高いのは改善すべきだと考えています。

なぜ改善すべきなのでしょう？ 第一に、いつでもごみを出せてしまうと、ごみを減らそうという意識や行動につながりにくいからです。「かんきょうニュース」のNo.1でもお知らせしたように、隠岐の島町の一人一日あたりごみ排出量は全国水準から見てもかなり多くなっています。第二の理由として、ごみを持ち込む場合、どうしても分別が甘くなりがちになってしまいます。隠岐の島町で出たごみを対象に毎年実施しているごみ質調査の結果によると、ごみの中には資源化可能なもの、とくにダンボールなどの紙類が多く含まれていることがわかります。隠岐の島町のリサイクル率が低い原因のひとつといえるでしょう。

波江彰彦先生の紹介

- ・福井県出身
- ・関西学院大学 教育学部 助教
- 地理学が専門ですが、廃棄物問題について研究されています。
- 隠岐の島町の生活環境について、以前から調査を続けられ、昨年度実施したごみアンケートを環境課と共同で行い、ごみ処理基本計画の策定にも加わっていただきました。ごみ問題についてはもちろん、隠岐の島町のごみ処理実態にも非常に詳しい先生です。



ごみ質調査の結果（平成25～29年度の平均、単位：%）
第二次 隠岐の島町一般廃棄物（ごみ）処理基本計画より抜粋

★ごみの減量やリサイクルに先進的に取り組む自治体の紹介

先進的取組を行っている自治体の中から、ここでは徳島県上勝町と愛知県名古屋市の事例を紹介します。

上勝町は人口 1,500 人あまりの小さな自治体ですが、ごみに関する取組では世界的にも注目を集めている町です。その取組とは「**ゼロ・ウェイスト**」というもので、2020（令和2）年までに町から出るごみをゼロにすることを目指しています。上勝町では基本的に行政によるごみ収集はありません。**住民が自ら日比ヶ谷ごみステーションにごみを持ち込み、34種類（！）に分別します。**そうしたきめ細やかな分別が約80%という高いリサイクル率につながっているといえるでしょう。

一方、名古屋市は言わずと知れた大都市ですが、リサイクル率は約25%と、全国水準を大きく上回っています。名古屋市のごみに関する取組は、平成11年の「**ごみ非常事態宣言**」から本格的に始まりました。計画していた最終処分場の建設が中止になり、ごみを大幅に削減する必要性に迫られたのです。その後、行政による積極的な働きかけの下、住民と事業者がそれぞれの役割と責任を果たし、名古屋市のごみは大きく減少し、リサイクル率は急上昇していきました。そのひとつの表れが**活発な集団回収活動**です。集団回収とは、町内会や子ども会などが定期的に古紙・古布などの資源物を回収する活動です。現在、名古屋市では約 2,800 の団体が集団回収に取り組んでおり、全国平均の倍近い実績を上げています。

ごみに関するデータの比較（平成 29 年度）

項目	上勝町	名古屋市	隠岐の島町	日本
一人一日当たりごみ排出量 (g/人・日)	491.9	950.5	1377.7	920.1
リサイクル率 (%)	79.7	24.9	6.1	20.2
年間一人当たり集団回収量 (kg/人・年)	0.0	33.4	0.0	17.0

出典：環境省「平成 29 年度一般廃棄物処理実態調査結果」

★主体性が大事、まずはやってみよう！

以上、2つの事例を紹介しましたが、隠岐の島町は上勝町ほど小規模ではないので、同じことをするのは現実的ではないでしょう。また、離島であるゆえ、回収した資源物を島外まで運ぶのにどうしてもコストがかかってしまうという問題もあります。しかし、2つの事例から学ぶべきは、**ごみ問題を自分ごととしてとらえ、主体的に行動する**ということではないでしょうか。

「PDCAサイクル」という考え方がありますが、住民や事業者の立場としては、まずはできることからやってみましょう（Do）。やってみることでいろんな気づきがあるはず（Check：評価）。行政への情報提供や住民どうしの対話を通じて気づきを改善（Act）に結びつけ、それがより大きなまちづくり（Plan）につながっていく。こうした住民の主体的行動を起点とする「DCAPサイクル」によって隠岐の島町のごみ問題が良い方向に進んでもらいたいですし、私としてもそのお手伝いをしたいと考えています。

～環境課からのお願い～

最近、ごみの自己搬入の際に落ちたものと思われるごみが道路やトンネル内などで見受けられます。大変危険ですので、自己搬入をされる際には、風等でごみが落下しないように対策を講じるようお願いいたします。

例：ロープやシートをかける、飛びやすいものは袋に入れる等

お問い合わせ先：隠岐の島町役場環境課

住 所：隠岐の島町岬町飯ノ山 1-2 島後清掃センター内

電 話：2-8565 FAX：2-6305